



北アフリカ地域ニュース

アルジェリア：アル・カーイダの指示による GSPC の改名 (1月27日付現地各紙)

1. イスラム過激派組織 GSPC の改名

GSPC (「布教と聖戦の為のサラフ主義集団」Groupe Salafiste pour la Prédication et le Combat) は、ウサマ・ビン・ラーディンの「命令」によりグループ名を GSPC から「イスラム・マグレブ諸国アル・カーイダ組織」(Organisation d Al-Qaida aux pays du Maghreb Islamique) に変更した旨、24日付の声明を発売した。同声明は、GSPC 大首領 アブ・モサブが署名し、26日にイスラム原理主義サイトが掲載したもので、ドバイ発 AFP 電で報じられた。AFP は同サイトを信用できるとしている。

2. 同声明の内容

GSPC はアル・カーイダへの正式な加入を果たし、ウサマ・ビン・ラーディンに忠誠を誓って以来、アルジェリアの戦士とアル・カーイダの同胞が真に結合していることを示す為に名称変更が必要となった。そこで、ビン・ラーディンの意見を仰いだところ、ビン・ラーディンより改名の指示を受け新名をいただいた。従って、我々は旧称「GSPC」を捨て、今後「イスラム・マグレブ諸国アル・カーイダ組織」と称することをアルジェリア内外の全てのイスラム教徒に伝える。

3. 専門家の見方

- (1) 治安情勢オブザーバーによれば、アブ・モサブが大首領の座に就いて以来、GSPC はアル・カーイダの戦略に沿うよう組織変更を重ねてきた為、今回の改名自体は驚くにあたらない。アル・カーイダの戦略とは、マグレブ諸国を動揺させると共に、マグレブを欧州への攻撃の中継地にする為に、GSPC のマグレブ地域での活動を拡大発展させることである。昨年アルジェ県東部での警察署爆破テロや、同県西部スタウェリでの米国・アルジェリア合併企業の輸送バス襲撃は、この戦略に従って行われたものと考えられる。
- (2) 又、アル・カーイダは GSPC にイラク戦闘員募集網を築かせている。GSPC は、イスラエルによるレバノン侵害、米国のイラク攻撃、チュニジアの女性ベール着用問題、フセイン(元大統領)の絞首刑といった出来事を利用し、苦もなく募集網を作り上げている。GSPC は既に複数の要員をマグレブ諸国からイラクに送り込み、一部要員に自国でテロを敢行させるべく GSPC のマキ(注：山岳・森林地帯)で戦闘訓練を行っている。昨年末から本年初頭にかけてチュニス南方で掃討されたグループがその一例である。観測筋は、GICL(リビア・イスラム戦闘集団)やGIMC(モロッコ・イスラム戦闘集団)など北アフリカの他のテロ・グループが近々「イスラム・マグレブ諸国アル・カーイダ組織」との連帯を表明する可能性も排除されないと見ている。